

ム・講演要旨集 : 136.

- 53) 田中洋之, Roubik, D.W., 須賀丈, 柳沢直, 渡辺邦夫, 田中美希子, Bastian Jr, S.T., Kahono, S., Mohamed, M. (2003) オオミツバチの系統地理学的研究. 第 50 回日本生態学会大会 (2003 年 3 月, つくば) 講演要旨集 : 251.
- 54) 泊賢一郎, 川本芳 (2002) 東日本におけるニホンザル個体群のタンパク多型解析. 第 18 回日本霊長類学会大会 (2002 年 7 月, 東京) 霊長類研究 18(3): 365.
- 55) 友永雅己, 水野友有, 林美里, 松沢哲郎 (2002) チンパンジー乳児による「道具使用行動」の発現—1.5 歳児におけるモノを利用した「水飲み」—. 日本霊長類学会第 18 回大会 (2002 年 7 月, 東京) 霊長類研究 18: 426.
- 56) 上野有理, 松沢哲郎 (2002) チンパンジーにおける母から子への食物の受け渡し. 日本動物行動学会第 21 回大会 (2002 年 11 月, 東京).
- 57) 上野有理 (2002) チンパンジー母子間にみられる食物を介したコミュニケーション. 日本赤ちゃん学会第 2 回学術集会 (2002 年 4 月, 福岡).
- 58) 山田彩 (2002) アライグマとタヌキは競合しているか? ~食性と個体数の検討~. 日本哺乳類学会 2002 年度大会 (2002 年 10 月, 富山) 日本哺乳類学会 2002 年度大会講演要旨集 : 162.
- 59) 山本亜由美, 國松豊 (2002) ニホンザルを中心とした, 霊長類におけるアトラス・ブリッジの形成. 第 18 回日本霊長類学会大会 (2002 年 7 月, 東京) 霊長類研究 18(3): 356-356.

#### ◇講演

- 1) 藤田志歩, 清水慶子 (2002) 野生霊長類の生殖生理と繁殖パラメーターラボとフィールドの架け橋—. 日本霊長類学会シンポジウム「霊長類の生殖生物学: ラボからフィールドまで」(2002 年 7 月, 東京) 霊長類研究 18(3): 360.

### 3. 学位取得者と論文題目

#### 京都大学博士 (理学)

郷 康広(課程) : Characterization and evolution of major histocompatibility complex genes in prosimians (原猿類における主要組織適合抗原複合体遺伝子群の進化機構の解析)

下岡ゆき子(課程) : Socioecological study of spider monkeys (*Ateles belzebuth belzebuth*) at La Macarena, Colombia: seasonality and sex differences in a fission-fusion social organization (コロンビア・マカレナ地域におけるクモザルの社会生態学的研究: 離合集散の季節変化と性差)

西村 剛(課程) : Studies on the ontogenetic changes in the shape of the vocal tract in chimpanzees (チンパンジーにおける声道形状の成長変化に関する研究)

早川 祥子(課程) : Molecular Ecology of the Japanese Macaque (*Macaca fuscata yakui*): Sexual Behavior and Paternity in Wild Yakushima Troops (ニホンザルの分子生態学: 屋久島の野生群における性行動と父性)

藤田 志歩(課程) : Reproductive Biology in Wild Female Primates: Variability in Hormonal Profiles, Behavior and Reproductive Parameters (野生霊長類のメスにおける生殖生物学的研究: 内分泌動態, 行動および繁殖パラメータの多様性)

Cláudia Sousa (課程) : The use of tokens by chimpanzees: computer-controlled experiments as a way of assessing chimpanzee cognition (チンパンジーのトークン使用: コンピューターを用いたチンパンジーの認知機能の測定)

Maura Lucia Celli Cunha(課程) : Cognition and behaviour of captive chimpanzees in tool use contexts (道具使用場面における飼育下チンパンジーの認知と行動)

友永(外岡)利佳子(論文) : Use of Tools for Drinking by Chimpanzees (*Pan troglodytes*) in the Wild and Captivity (チンパンジーの水飲みにおける道具使用: 野外実験と飼育下実験)

#### 京都大学修士 (理学)

大藪由美子: 近畿地方から初めて出土した骨損傷を残す弥生時代人骨—奈良県, 四分遺跡—

久能 玲子: 運動情報を手掛りとした図形弁別課題遂行中の視覚前野のニューロン活動

倉岡 康治: 情動刺激に対する自律神経応答の解析

香田 啓貴: 音声交換の不成立時に見られるニホンザルの音声強調

泊 賢一郎: ニホンザルの集団遺伝学的研究

中島 野恵: チンパンジー乳児における音声に対する応答の発達の变化

深谷 もえ: 幸島のニホンザルにおける採食戦略

### 4. 外国人研究員・研究生

#### 外国人研究員

氏名: Sachithanatham Srikantha

(スリランカ民主社会主義共和国)

受入教官: 松林清明

研究課題: サルの超日リズム及び短日リズムと夢遊病に関する比較研究

招へい期間: 2002 年 6 月 1 日~2003 年 3 月 31 日

## 研究生

氏名：RIZALDI  
受入教官：渡邊邦夫  
研究題目：霊長類生態学  
受入期間：2002年4月1日～2003年3月31日

氏名：THAUNG HTIKE  
受入教官：茂原信生  
研究題目：ミャンマー国ポンダウン丘陵出土の化石哺乳類の研究  
受入期間：2002年10月1日～2003年3月31日

## 招へい外国人学者・外国人共同研究者

氏名：Ceugniet, Mireille Miyuki (フランス共和国)  
受入教官：小嶋祥三  
研究課題：ニホンザルの種特異的音声の知覚に関する研究  
招へい期間：2000年11月1日～2002年8月17日

氏名：Kawin, Kanya (タイ王国, ラジャバット大学  
ナコンワソ校 講師)  
受入教官：濱田 穰  
研究課題：ヒト以外の霊長類における骨代謝マーカーの定量的研究  
招へい期間：2002年5月8日～2002年5月31日

氏名：Biro, Dora (ハンガリー共和国)  
受入教官：松沢哲郎  
研究課題：チンパンジーの認知と行動：人間の知性の進化的起源を探る試み  
招へい期間：2002年6月3日～2003年6月2日

氏名：Cameron, David Wayne (オーストラリア, シドニー大学  
解剖学・組織学科 オーストラリア・リサーチ・カウンシル特別研究員)  
受入教官：濱田 穰  
研究課題：大型類人猿の顔面頭蓋ならびに咀嚼器官系に関する比較形態学的研究  
招へい期間：2002年7月5日～2002年7月30日

氏名：Caton, Judith Mary (オーストラリア, オーストラリア国立大学  
地質学科・ポストドクトラル特別研究員)  
受入教官：濱田 穰  
研究課題：大型類人猿の顔面頭蓋ならびに咀嚼器官系に関する比較形態学的研究  
招へい期間：2002年7月5日～2002年7月30日

氏名：Bardi, Massimo (イタリア共和国, ビサ大学 講師)  
受入教官：大澤秀行  
研究課題：霊長類においてホルモン及び社会関係が母性

行動に対する影響

招へい期間：2002年10月15日～2002年11月20日

氏名：Fagot, Joël (フランス共和国, フランス国立科学研究センター・  
認知神経科学研究センター 主任研究員)  
受入教官：友永雅己  
研究課題：チンパンジーの視覚認知に関する比較認知科学的研究  
招へい期間：2002年11月6日～2002年12月20日

氏名：Foitova, Ivona (チェコ共和国,  
オランウータン保護財団 (獣医))  
受入教官：ハフマン, マイケル  
研究課題：野生オランウータンの生態学的・獣医学的研究  
招へい期間：2002年10月28日～2002年11月28日

## 5. 日本人研究員・研修員

### 日本学術振興会特別研究員

氏名：高橋弘之  
受入教官：大澤秀行  
研修題目：野生オランウータンの保全のための遺伝学的・採食生態学および繁殖生理学的研究  
受入期間：2000年4月1日～2003年3月31日

氏名：平田 聡  
受入教官：松沢哲郎  
研修題目：チンパンジーとオランウータンにおける社会的場面での道具使用の比較  
受入期間：2001年4月1日～2002年4月30日

氏名：田代靖子  
受入教官：竹中 修  
研修題目：分子生物学的手法を用いたチンパンジーの社会構造の比較と種分化に関する研究  
受入期間：2001年6月1日～2003年3月31日

氏名：泉 明宏  
受入教官：小嶋祥三  
研修題目：霊長類の聴覚における知覚的体制化の研究  
受入期間：2002年4月1日～2002年4月15日

### 研修員

氏名：明和 (山越) 政子  
受入教官：松沢哲郎  
研修題目：ヒトおよびチンパンジー乳児における他者の表情認知とその発達  
受入期間：2002年4月1日～2002年11月15日

氏名：土田順子  
受入教官：林 基治  
研修題目：霊長類の加齢に伴う神経解剖学的変化  
受入期間：2002年4月1日～2002年9月30日

氏名：江木直子  
受入教官：茂原信生  
研修題目：初期真猿類の行動生態の推定  
受入期間：2002年5月9日～2002年10月31日

氏名：片井 聡  
受入教官：三上章允  
研修題目：霊長類の高次脳機能解析  
受入期間：2002年10月1日～2003年3月31日

氏名：鏑本武久  
受入教官：茂原信生  
研修題目：東アジアにおける哺乳類の進化  
受入期間：2002年10月1日～2002年10月31日

#### 受託研究員

氏名：佐藤 崇  
受入教官：中村 伸  
研修題目：サルモデルでのアレルギー・免疫応答に関する研究  
受入期間：2002年10月1日～2003年9月30日

#### 非常勤研究員

(氏名：採用期間)  
上野 寛子：2002年4月1日～2002年9月30日  
鏑本 武久：2002年4月1日～2002年9月30日  
茶谷 薫：2002年4月1日～2002年9月30日  
川合南海子：2002年10月1日～2003年3月31日  
土田 順子：2002年10月1日～2002年10月31日  
半谷 吾郎：2002年10月1日～2003年3月31日  
井上 雅仁：2002年11月1日～2003年3月31日  
江木 直子：2002年11月1日～2003年3月31日  
山越 政子：2002年11月16日～2003年3月31日

## 6. 研究支援推進員

(氏名：採用期間)  
梅田せつ子：2002年4月1日～2003年3月31日  
高木かおり：2002年4月1日～2003年3月31日  
片岡 敦子：2002年4月1日～2003年3月31日  
加藤みどり：2002年4月1日～2003年3月31日  
中野千枝子：2002年4月1日～2003年3月31日  
葉栗 和枝：2002年4月1日～2003年3月31日  
福富 憲司：2002年4月1日～2003年3月31日  
宮田 志保：2002年6月1日～2003年3月31日  
岡田 真紀：2002年11月1日～2003年3月31日  
川本 咲江：2002年11月1日～2003年3月31日  
佐藤 慎祐：2002年11月1日～2003年3月31日  
塚原由紀子：2002年11月1日～2003年3月31日  
吹浦 吉孝：2002年11月1日～2003年3月31日

## 7. 研究集会

### 所内談話会

第1回：2002年5月27日(月)  
Dr. J. S. Lund (Dept. of Ophthalmology, Univ. of Utah, USA)  
“Anatomical cortical columns in macaque primary visual cortex”

第2回：2002年10月4日(金)  
Prof. Jaume Bertranpetit (Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain) “Population and comparative genetics of functional CAG tandem repeats”

第3回：2002年11月20日(水)  
Prof. Martin Pickford (College de France, Paris, France)  
“ORRORIN-The 6 million year old Millennium Ancestor”

第4回：2002年12月4日(水)  
Dr. Ludwig Huber (University of Vienna, Austria)  
“Mechanisms of social learning in marmosets and keas”

(文責：田中洋之)

### 霊長類学総合ゼミナール 2002

日時：2002年12月6日(金) 10:00～17:30  
場所：京都大学霊長類研究所大会議室  
参加者：約40人

シンポジウム 「真の因果とは？－因果関係を明らかにする研究手法－」

“Noninvasive approaches to the study of the physiological basis of behavior in free-living primates” Gord Barrett